要旨和訳

本研究の目的は，信頼の内集団バイアスが，集団内での一般互酬行動への期待から生じることを明らかにすることにある。この仮説を検証するため，最小条件集団を用いた分配者選択実験を行った。実験では81名の参加者全員に対して独裁者ゲームの受け手の役割を与え，一定額の報酬を受け手との間で分配する分配者として，内集団成員と外集団成員のどちらを選択するかを測定した。実験の結果は，信頼の内集団バイアスが生じるのは，受け手がどちらの集団の人間かを知った上で分配者が分配額を決める条件に限られ，分配者が受け手の集団を知らないで分配額の決定を行う場合には生じないことを示している。この結果は，内集団分配者の選択が，集団内では人々が自集団の人間を好意的に扱うという一般的信念，すなわち集団内に一般的互酬システムが存在するという信念，にもとづくものであることを示している。